

特42

459

梅枝

12

館書圖京東

二〇册

九一號

四七架

函

音樂類

和書門



梅枝

しんりつりぬあふりきく^二一^三の^四蘭

あつりきり^二早^三見八甲斐の國^四より

より出るゆりきく^二一^三の^四新緑の^五を

海渡きしと多分たあふり^二一^三の^四程よ此

な思立^二一^三の^四國よ藝作^五の^六位ハ

ちつり^二一^三の^四雲^五吹^六乃^七く^八の^九さ^十て^{十一}た^{十二}ね

おあしはちりきく借入るは
多降目も是行れ一書と切ら粉給へ
とてちちあへり夕露の降
乃富八う身たたく油とて
打まりあはれも核人書西はよちと
ころく東南よ来る雨は
多吹暗て月よあらん嬉も可
也

信者の松吹月も一て核人の夢と
あましくあはれもあまはまは
るるの行やもてなり
さうさう大敷同敷舞乃衣裳のいん不
審よ結久女定よくは不審のあは是
か人の形見あはれはよつちまあはは語
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

物語のへ女「昔當國天皇幸寺の淺岡と
 して一人あり同く此佳者をも富士
 とや伶人者かま比内裏の管絃の
 やくと弾ひて都より一に實
 此後を給うまよして淺岡安らひと思
 富士のあやまりの詩を其女にか
 妻むのよのあやまりの管絃を

うつく恋のうつくし終に中へ
 く縁なうく用く給う人伊木様
 よ妻く其のふる其古人の富士妻の
 人の人よあやまりの女木かよるれ
 人の人の古あやまりの物語の
 かのあやまりのあやまりの行を
 此あやまりのあやまりのあやまり

給ふも也 女内 お行きも共思ひ向

お慕はれ候はしむるもいと多しと云

もきん 手紙 程も不審に物あり取ら

た敷篋の三つあり爰より物一給ふ

供 伊 主の首より物行た大鼓行も若し

身 伊 身 女 此代 上高 信 女 信

あつたのうぐ ウ 高 女 年 女 一 女 物

ま 女 書 女 執 女 下 女 だ 女 上 女 け 女 給 女 へ 女 云

捨 女 書 女 け 女 へ 女 上 女 け 女 給 女 へ 女 云

仏 女 様 女 へ 女 上 女 け 女 給 女 へ 女 云

才 女 一 女 世 女 の 女 諸 女 位 女 乃 女 出 女 世 女 の 女 本 女 懐 女 念 女 主

成 女 佛 女 の 女 直 女 道 女 あり 女 一 女 あり 女 一 女 つ 女 女 女 人 女 如 女 仏

疑 女 あり 女 一 女 者 女 不 女 得 女 作 女 梵 女 天 女 王 女 三 女 者

帝 女 釈 女 三 女 者 女 魔 女 王 女 雲 女 持 女 輪 女 五 女 五 女 者 女 仏 女 身

三行其方 昂の由仁行類のありて海
のよき物なりてしる給也
或ハ若有國法者カク無一不仁仁流
一雙泚經とて人由仁まじりてあり
き仁下下 常の燈の信ありて
き仁下下 常の燈の信ありて
き仁下下 常の燈の信ありて
き仁下下 常の燈の信ありて
き仁下下 常の燈の信ありて

性仁姿ありて業の衰衰とては
かしきりての姿ありて相のありて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて
けき出果かへてきりて

給入屋上吉半地 又南白也花の上 懺悔の
 舞をさかしく愛慕の上 心せと給入
 心なくはくは高純の上 雲霧をさかしく
 夜朝もあつた夜半樂をさかしく
 心も昔は信吉の松乃階より縁も地
 浪をてゆ人系法路か女上 津も志の地
 吉原の下女 音海波乃浪を地 心せ

也神のちさしく行端の梅も女 尊は
 主あくや花の女 新殿樂地 引こも
 当人梅うえ女 梅う枝よ社も尊の地 心せ
 多入月下女 白中 花の下 尊の中 心せ
 カク中 白也尊の中 規く中 吉し中 後中 心せ
 花の中 尊の中 尊の中 尊の中 尊の中 尊の中
 了後中 の中 わ中 今中 目中 前中 の中 尊中

新に神皇... 奏乃樂の敷... 下女... 聖恩... 了... 心... 小松... 小面敷...
新に神皇... 奏乃樂の敷... 下女... 聖恩... 了... 心... 小松... 小面敷...
新に神皇... 奏乃樂の敷... 下女... 聖恩... 了... 心... 小松... 小面敷...

右之本者觀世太夫織部
章句真本令成行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年三月六日翻刻御届
同年四月十二日別製本御届

京都府平民

翻刻人

寺田熊次郎

下京區第五組赫屋町

錦小路五梅屋町十三番戶

定價四錢



